

HP 『海軍砲術学校』 公開史料

海軍省軍極秘第四三五号

海軍信号規程

昭和十八年第四改正

海軍省軍極第四三五号

海軍信号規程（昭和十八年第四改正）別冊を通定ム

別冊へ昭和十八年九月一日ヨリ之ヲ実施ス

昭和十八年七月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

海軍信號規程

目次

機密に関する事項	一
括弧の用法及用語の意義	一
第一章 總則	二
第二章 通則	三
第三章 旗號、符號、手旗形象及其の用法	四
第一節 旗號、符號及其の用法	四
第二節 手旗形象の種別、作爲法及其の用法	二〇
第四章 交信表示法	二六
第一節 招呼表示法	二六
第二節 中繼表示法	二七
第三節 聽信及解信表示法	二八
第五章 旗號信號法	二九
第六章 發光信號法	三〇
第七章 發音〔水中〕信號法	三四
第八章 手旗信號法	三五
第九章 色燈信號法	三七

第十章 雜種信號法……………三八

附錄

海軍信號誌……………四一

機密に関する事項

本規程中各條項の機密に關しては左記に依るものとす

記

- 一、第三條及第十二條(但し文字旗の圖樣は秘密の取扱をなさず)を軍極秘扱とす
- 二、第十三條、第十四條、第十五條及附録は秘密の取扱をなさず
- 三、前諸號を除くの外秘扱とす

括弧の用法及用語の意義

一、本規程中に使用する括弧の用法左の如し

イ 小括弧「」は信號符字、信文又は名詞を示す

ロ 大括弧「」は使用の場合に應じ括弧外若は括弧内の字句の何れかを取るべきことを示す

ハ 二重括弧「」は本文の解釋又は参照なることを示す

ニ 括弧「」は使用の場合に應じ括弧内の字句を取捨すべきことを示す

一、本規程中に使用する艦、所、隊及機の意義左の如し

イ 艦 は海軍艦船全般を表はすものとす

ロ 所 は見張所、防備衛所、信號所等を表はすものとす

ハ 隊 は艦隊、戰隊、駆逐隊、潜水隊、海防隊、掃海隊、駆潜隊、根據地隊、防備隊及航

空隊等を表はすものとす

二 機とは海軍航空機全般を表はすものとす

右の艦、所、隊、及機を總稱して信號艦所又は艦所と稱す

三、本規程中に使用する用語の意義左の如し

(イ) 信號通信 有線〔無線〕電信〔電話〕又は文書、口頭に依らざる通信を總稱す又信號と略稱するを例とす

(ロ) 信號交信 信號受発の爲に行う送受信の手續を謂ふ又交信と略稱することを得

(ハ) 通信文 通信の目的を以て作製したる文章を謂う

(ニ) 信號文 通信文を信號に必要な形式に変更したるものを謂い之を左の如く区分す

(一) 平文 普通語、略語又は兩者を以て作製したる信號文を謂う

例、略語 通信文を簡單ならしむる目的を以て其の一部を省略せる語又は特定の字句を謂う

(二) 符号文字 信號符号より成る信號文を謂う

(ホ) 信文 各種信號書、程式等に於て信號符号に附与せる特定の文章、句、語等を謂う

(ヘ) 起信 信號交信を始むるを謂う

(ト) 發信、中繼、着信

信號を發するを發信と謂ひ他の信號艦所宛の信號を受信し之を直接又は第三者を通じて送信するを中繼と謂ひ信號が其の目的の艦所に到達するを着信と謂う

(チ) 送信、受信 對手に信號を送るを送信と謂ひ之を受くるを受信と謂う

(リ) 應信 信號に應ずるを謂う

(ヌ) 解信 信號を了解するを謂う

(ル) 終信 信號を終了するを謂う

(ロ) 消信 信號を取消すを謂う

(7) 指示 送信開始に當り對手を呼出すを謂う

(カ) 照校 信號艦所屬に於て信號之反覆校正するを謂う

(コ) 送信符劃 發光電燈(水中)信號の送信に於て長符、短符及間隔の長さ並に之等の割合を謂う

(ク) 連綴 信號符字二個以上より成る符字文(略語を含む)を同時に掲揚(送信)する場合各符字間に

同索(句點)錯誤の虞なきときは省略することを得を置くか又は二本以上を揚旗線に掲揚するを謂う

(ケ) 加ふ 固有の信號旗符の上(下)に他の信號旗符を同索(句點)を置くことなく直接附加するを謂う

四 本規程中使用する直屬部隊(艦)の意義左の如し

(イ) 連合艦隊指揮官に対しては所屬各艦隊及其の他直屬の隊(艦)

(ロ) 艦隊指揮官に対しては所屬各戰隊及其の他直屬の隊(艦)

(ハ) 戰隊(水雷(潜水)水雷(航空)艦隊)指揮官に対しては所屬各艦隊

(ニ) 水雷(潜水)水雷(航空)防衛戰隊、根據地隊指揮官に対しては所屬各艦及各駆逐隊(潜水)水雷(航空)防衛隊(海防隊)等

(ホ) 隊(駆逐隊)等

(ヘ) 航空戰隊指揮官に対しては所屬各艦及各駆逐隊(艦)

(ヘ) 駆逐隊、潜水隊、海防隊、掃海隊、駆潜隊等の指揮官に対しては所屬各艦艇

第一條 本規程は海軍に於ける信號法を規定す

但し本規程以外各種信號書、程式及規程等に於て特に規定せる事項は各其の規程に依る。

第三條 郵外信號艦所との一般信號は國際通信書信號篇に依る

第三條 各種信號に用ふる信號書、程式、損程式の他肉係圖書類の種別及使用区分左の如し

[illegible]

第四條 信號方法の種別及之に使用する用具等左の如し

信號方法の種別	信 號 用 具 標 準
旗 號 信 號	海軍信號旗
發 光 信 號	糧信號燈、信號探照燈(探照燈)、二重口信號燈、點滅信號燈、方向信號燈 哨信儀、移動信號燈、攜帶信號燈、垂式信號燈、輕便信號電燈
發 音 信 號	汽笛、汽角、喇叭等
水 中 信 號	水中信號器、水中聽音器
手 旗 信 號	手旗等
色 燈 信 號	齊約信號燈、船尾信號燈、船側信號燈、連揚信號燈
火 煙 信 號	信號彈、號火、火箭、煙火信號筒、噴煙信號筒
信 號	帆布、薄板等を以て作りたる形象
形 象 信 號	吹流、黒球等

第五條 艦隊司令長官、鎮守府警備司令長官及独立部隊指揮官は所要に應じ規程を定むることとす
得此の場合之を海軍大臣及軍令部總長に報告すると共に關係各部に通報するものとす

第六條 信號艦所には附録に規定する海軍信號誌を備ふるものとす

第二章 通 則

第七條 信號は其の緩急の程度に依り左の通區分す

一 緊 急 信 號 作戰又は保安上緊急を要する重要なる信號

二、至 急 信 至急通達を要する信號

三、普 通 信 前諸號以外の信號

交信及其の処理は前記の順序に之を行ふものとする

第八條 發信者名、着信者名を附せざる信號は發信艦所の首席指揮官(長)より着信艦所の首席指揮官(長)に宛てたるものとする

第九條 運動、教練、作業に關する信號の發動時機は左の通定む

一、預警信號

信號降下するとき但し特に規定あるものを除く

二、發光信號、發音信號、水中信號、手旗信號

(イ) 艦隊運動程式に依る信號及針路信號

本信號の後發動符又は發動形象を行はるとき

但し運動符のみを以て預警(嚮導)艦の通達を進ましむる場合は信號了解のときを以て發動の時機とす

(ロ) 其の他の信號

信號了解のとき

但し發動の時機を指定するの要あるものは本文の始に海軍通信略語「ハ」を冠し(イ)項に準じ發動を令するものとする

三、色燈信號

(イ) 高動信號燈に依る信號

後續艦信號を了解するとき(後續艦を有せざる艦は自艦信號了解のとき)

(四) 艦尾信號、艦側信號

信號消滅のとき

但し速力信號及転舵信號は信號了解のとき

第十條 信號交信に當り要すは各種信號方法を併用することを得此の場合前條第九條に依る發動の時機は着信艦所が先に了解したる發動に依り行ふものとす

第十一條 信號の中継を行ふ場合の中継艦所の標準左の如し

一、單列へ鉤縱陣、鱗次陣之に準ずるにありては總介在者

二、複列隊形にありては

(一) 隊全般に対する信號は

(一) 戰隊(水雷)潜水(航空)警備(防通)戰隊を除くにありては各艦端末艦を除く

(二) 水雷潜水(航空)警備(防通)戰隊にありては旗艦、各軍艦及各司令駆逐艦(水雷艇)潜水艦(覆海艇)

(三) 單隊の複列隊形にありては指揮官乗艦及各列に於ける指揮官乗艦の相對艦

(四) 一部に対する信號は中継に便なる艦

三、視認困難なるときは發着信艦所間の介在者

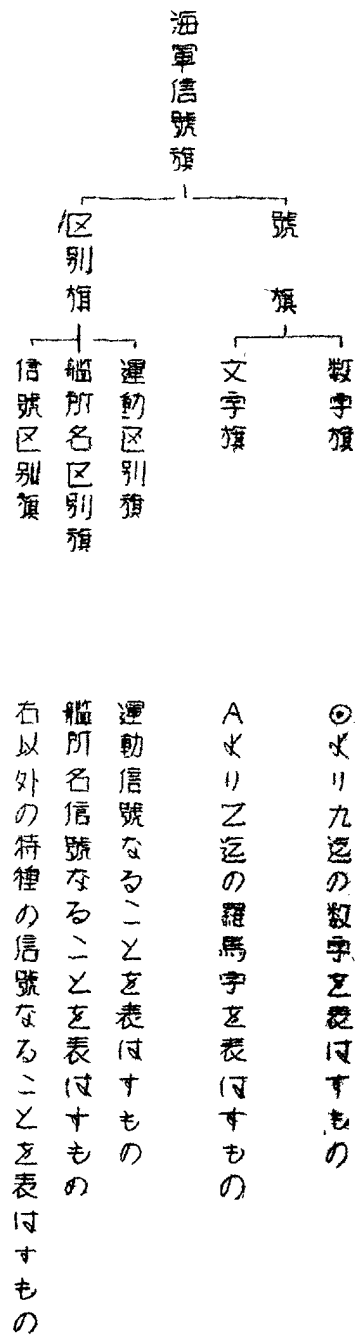
第三章 旗旗、符號、手旗形像及其の用法

第一節 旗旗、符號及其の用法

第十二條 旗旗、符號の種類、名稱、図樣及其の用法等左の如し

一、旗旗の分類構成等左の如し符號は特に規定あるもの、外之に準ず

但し



(ウ) 信號艦所を表はす目的を以て左の運動區別旗を用ふる時は之を艦所名區別旗とす

隊番旗(隊番號を表はす)番號旗(艦船番號を表はす)

(ロ) 使用信號信號畫の種別又は針路方位信號なることを表はす目的を以て左の文字旗又は運動區別旗を用ふるときは之を信號區別旗とす

H旗(船団運動並に通信規程に依る信號なることを表はす)

T旗(海軍作戰通信略語書に依る信號(預備信號)のみなることを表はす)

V旗(輸送船隊運動並に通信規程に依る信號なることを表はす)

W旗(海軍信號畫(乙)に依る信號なることを表はす)

X旗(船用信號書に依る信號なることを表はす)

Y旗(洋上給油、曳航特約信號なることを表はす)


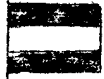




方位旗(針路方位信號なることを表はす)





(ハ) 部隊名、隊番號又は艦船番號を表はす目的を以て左の文字旗を用ふるときは之を數字旗とす





	符				旗		
A ^ゴ ン	9 ^{ニノ}	8 ^{ハチ}	7 ^{シチ}	6 ^{ロク}	5 ^イ	4 ^{ヨン}	3 ^{サン}
イ	九	八	七	六	五	四	三
<p>部隊名、隊番號又は艦船番號の數を表現する爲其の下に加ふるときは百位の一を表現し之に數字旗を加へて天々百より百九十九迄の數を表現す</p> <p>例 隊 A U ○ ○ 第百十番隊 （昭和十年海軍省令第百三十三號參照）</p>							



文




E <small>イスト</small>	D <small>デンキ</small>	C <small>シース</small>	B <small>アリ</small>
へ	ホ	ニ	ハ
	—	—	—
			<p>一、一流は射撃、發射、發火、機雷敷設其の他危險物取扱の作業に従事し或は附近に潜水者あることを表はす</p> <p>二、航行中坐礁衝突、航路に危險物發見、運転不自由又は其の他の異変に依り他艦に危險を及ぼす虞あり之を他艦に急報するとき本旗一流を用いるを例とす</p> <p>三、夜間に於て一號二號を表はすには紅燈一箇を以てす</p> <p>註 危險符として使用するときは危險燈紅燈と併用するものとす</p>
			<p>B旗(赤旗)二流を一綴として掲揚</p> <p>附近五哩以内に潜水艦潜航中なることを表はす(大正十三年海軍省令第四號参照)</p>



K ^ケ	J ^{シラジ}	i ^{ダシ}	H ^{トウカン}	G ^{ゲキ}	F ^{エフ}
ワ	ヲ	「濁点」	又	リ	子
					
—	—	—	—	—	—
		<p>一 一流は演習に於て統監の所在を表はす 後同は白燈三個を連掲して之に代す</p> <p>二 一流と同時に進行信號は船団運動並に通信規程に依る信號なることを表はす</p> <p>註 統監符として使用せず</p> <p>一流と同時に進行信號は之を了解せば直に發動すべきことを表はす</p>			

字			
O ^{オハ}	N ^{ケウレン}	M ^マ	L ^{エル}
レ	夕	ヨ	力
			
<p>註 部隊名、隊番號又は艦船番號の教を表はす爲其の下に加ふるときは十位の七を表はし之に數字旗を加へて夫々七十より七十九迄の教を表はす</p>	<p>註 教練符として使用せず</p> <p>一流は演習中艦船、航空機、砲台、防備衛所等の廢滅を表はす(夜間は白白緑三燈を連掲して之に代ふ)</p> <p>註 疾艦符として使用するときは本旗「白白緑燈」と併用するものとす</p> <p>一流は旗機信號教練又は防火防水教練等特に他艦船に表示するを必要とする教練施行中なることを表はす</p> <p>(夜間は白白緑三燈を連掲して之に代ふ)</p> <p>二、說話信號の上に連綴するとき其の信文は規定又は教練なることを表はす</p>	<p>例</p> <p>N—我艦故障</p> <p>我艦故障(規定)</p> <p>N—艦戰準備第一作業を實施せよ</p> <p>艦戰準備第一作業(教練)を實施せよ</p>	<p>例</p> <p>〇〇 第七十駆潜隊</p>

S ^サ	R ^リ	Q ^キ	P ^キ
ラ	ナ	子	ツ
			
<p>一流は旗艦全般を表はす</p> <p>二、隊名番號の下に加ふるときは其の隊の各旗艦(各司令乗艦艇)を表はす</p> <p>三、艦隊名の下に番號旗を加へ其の下に加ふるときは第該艦隊所属の各旗艦及艦隊附属艦(艇)の各首席指揮官兼艦(艇)を表はす</p> <p>四、艦隊旗の下に本旗を加へ其の下に◎</p>		<p>部隊名、隊番號又は艦船番號の數を表はす</p> <p>其の下に加ふるときは十位の八を表はし之に數字旗を加へて夫々八十より八十九迄の數を表はす</p> <p>部隊名、隊番號又は艦船番號の數を表はす</p> <p>其の下に加ふるときは十位の九を表はし之に數字旗を加へて夫々九十より九十九迄の數を表はす</p>	<p>部隊名、隊番號又は艦船番號の數を表はす</p> <p>其の下に加ふるときは十位の八を表はし之に數字旗を加へて夫々八十より八十九迄の數を表はす</p>
<p>例</p> <p>S 旗艦全般</p> <p>S 艦隊内各旗艦</p> <p>S 第一艦隊の各旗艦及附屬艦隊の各首席指揮官兼艦</p> <p>S 各戰隊水雷潜水航空艦艇(防衛戰)</p>		<p>例</p> <p>隊 Q 7 第九十七番隊</p>	<p>例</p> <p>海 K P 9 第八十九警備隊</p>

U ₂	丁 ₁	
ウ	ム	
		
照	用せず	<p>旗を加ふるときは各艦隊司令長官 旗艦を表はす</p> <p>Ⅱ 根據地隊名(海A)の下に加へて 根據地隊内各部隊首席指揮官乗艦 (艇)を表はす</p>
<p>一、一流は緊急を要する信號の速達と 所任信號艦所に一時信號を中止せし むることを表はす(夜間は紅白緑三燈 を連掲して之に代ふ、第四十九條参 照)</p>	<p>一流と同時に進行信號は海軍作戦通信 略語書リサに依る信號なることを表は す(手旗、發光、發音、水中信號には適 用せず)</p>	<p>隊を除く(預備 水S 各水雷戰隊旗艦 駆S 各司令駆逐艦 艦S 各艦隊司令長官 旗艦</p> <p>艦S 〇否6 第六艦隊を除き たる各艦隊司令 長官旗艦</p> <p>海AS 根據地隊内各部隊 首席指揮官乗 艦(艇)</p>
<p>別 艦U 〇 第十艦隊</p>		

<div data-bbox="102 255 240 357"> <p>列名 常用信標</p> <p>エックス X</p> </div>	<div data-bbox="240 255 548 357"> <p>W</p> <p>ワ リ ユ</p> </div>	<div data-bbox="548 255 912 357"> <p>V</p> <p>ブ イ</p> </div>	
マ	ヤ	ク	
			
<div data-bbox="102 531 240 685"> <p>――</p> </div>	<div data-bbox="240 531 548 685"> <p>――</p> </div>	<div data-bbox="548 531 912 685"> <p>――</p> </div>	
<p>一、 部隊名、隊番號又は艦船番號の數を記す。其の下に加ふるべきは十位の一を記し之に數字旗を加へて夫々十より十九迄の數を記す。</p> <p>二、 一流と同時に進行信號は海軍常用信號書に依る信號なることを記す。</p> <p>三、 部隊名、隊番號又は艦船番號の數を記す。其の下に加ふるべきは十位の一を記し之に數字旗を加へて夫々十より十九迄の數を記す。</p>	<p>一、 一流と同時に進行信號は海軍常用信號書に依る信號なることを記す。</p> <p>二、 部隊名、隊番號又は艦船番號の數を記す。其の下に加ふるべきは十位の一を記し之に數字旗を加へて夫々十より十九迄の數を記す。</p>	<p>一、 一流と同時に進行信號は海軍常用信號書に依る信號なることを記す。</p> <p>二、 部隊名、隊番號又は艦船番號の數を記す。其の下に加ふるべきは十位の一を記し之に數字旗を加へて夫々十より十九迄の數を記す。</p>	<p>一、 一流と同時に進行信號は海軍常用信號書に依る信號なることを記す。</p> <p>二、 部隊名、隊番號又は艦船番號の數を記す。其の下に加ふるべきは十位の一を記し之に數字旗を加へて夫々十より十九迄の數を記す。</p>
<p>例</p> <p>④ X ④ 第四十艦組艇隊</p>	<p>例</p> <p>潜 W 一 第三十一潜水艇隊</p>	<p>例</p> <p>駆 V 6 第二十六駆逐艦隊</p>	

	Z ^ズ	Y ^{ワイ}	
	フ	ケ	
			
	⋮	⋮	
	<p> 一、表はす為其の下に加ふるときは十位の四を表はし之に数字旗を加へて夫々四十より四十九迄の数を表はす 二、一流と同時に付小信号は洋上給油曳船待約信号なることと表はす 三、部隊名、隊番号又は艦船番号の数を表はす為其の下に加ふるときは十位の五を表はし之に数字旗を加へて夫々五十より五十九迄の数を表はす 四、艦船名番号の下に加へて當該艦船中所轄長以上の乗組せる艦船を表はす 五、部隊名、隊番号又は艦船番号の数を表はす為其の下に加ふるときは十位の六を表はし之に数字旗を加へて夫々六十より六十九迄の数を表はす </p>		
	<p> 例 艦 Z 艦隊中所轄長以上の乗組せる艦船 水 1 Z 第一水雷戦隊中所轄長以上の乗組せる艦船 船 2 所轄長以上の乗組せる艦船 船 Y Z 横須賀鎮守府在所轄艦船中所轄長以上の乗組せる艦船 海 A Z 根據地隊内所轄長以上の乗組せる艦船 駆 1 第六十一駆逐隊 </p>		
	<p> 例 掃 Y 2 第五十二掃海隊 </p>		

<div> <div>運</div> <div>動</div> </div>							
陣形 シ	列向 ル	取席 ケ	運動 ト	齊動 □	青 青	赤 赤	方 方
艦隊運動程式に依る信號を表はす	艦隊運動程式に依る信號を表はす	艦隊運動程式に依る信號を表はす	艦隊運動程式に依る信號を表はす	艦隊運動程式に依る信號を表はす	艦隊運動程式に依る信號を表はす	艦隊運動程式に依る信號を表はす	<p>一、號旗一流、號旗一流の上下に回答旗（H旗）を加へたる場合を含むの上下に加へて艦隊運動程式に依る信號なることを表はす</p> <p>二、號旗二流、下位がH旗なる場合を除く</p>
		<p>国際通信の場合には 「第三代表旗」</p>	<p>国際通信の場合には 「第一代表旗」</p>				<p>例</p> <p>方 2 艦隊運動程式に依る信號</p> <p>方 A</p> <p>方 H</p> <p>方 C 眞針路六六度</p> <p>M 眞方位三五〇度</p> <p>N 方</p>

隊番
別名
随伴旗

二



く又は三流の上(下)に加へて通軍信號
書に依る針路方位信號を表はす
三、度數に相当する數字旗二流度數が
一流の場合には○旗之上に加へ二流と
す又は三流の上(下)に加へて眞針路(眞
方位)を表はす

一、一流は随伴運動を命ずることを表
はす

三、數字旗の上に加へて所屬艦隊に於
ける指示番隊を表はす

三、A(一)B(二)C(三)旗の上に加へて夫々
所屬軍隊に於ける第一、第二、第三、小隊
を表はす

四、水雷(潜水)防備戰隊及海面防備戰隊
内に於て數字旗の上に加へて当該所
屬の旗艦(海面防備部隊指揮官乗艦)○
旗を用ひ又は指示番隊を表はしR旗
の上に加へて駆逐艦、水雷艦、潜水
艦、掃海艇、駆潜艇等を表はす

五、警備防備戰隊、根據地隊及海面防

方A 25 磁針路北三五度東
C 36 方位氣方位南三六度
西
方○ 眞針路○度
○ 6 方 眞方位六度
方25 眞針路二五○度

例

隊2 二番隊

水雷(潜水)防備戰隊及海面
防備部隊内

隊○ 旗艦(海面防備部隊指
揮官乗艦)


隊3 三番隊

隊R 駆逐艦、水雷艦、潜
水艦、掃海艇、駆潜

艇等を表はす

警備防備戰隊、根據地隊及
海面防備部隊内に於て

隊L 2 第二部隊

旗		符	
	番 號	標 準	發 動
			
備考隊内に於て本旗の下にし旗及數字 旗を加へて指示番號の當該部隊名を表 はす	一、一流は運動の基準とふることを表 はす 二、夜間は綠燈一個を以て本旗に代ふ 三、數字旗の上に加へて單隊内に於け る指示番號の艦船を表はす 四、艦所名信號の下に加ふるときは其 の信號は說話信號なることを表はす 但し錯誤の虞なきときは省略するこ とを得 五、艦船番號のみを以て艦船を表はす場 合には上位の番號旗を省略するを例 とす	註 標準符として使用するときは標準 旗(綠燈)と併用するものとす 一、信號に対する發動を表はす(發動の 時候は長符消滅のとぎ) 二、艦(艇)名又は發信番號に就て本符を	
例	番 一 一番艦 船 ○ B 番、○ B 艦を說話信 號として表はす 船 ○ P 2 X 番、○ P 艦 2 X 艦を說話信號と して表はす 3 番 三番艦を說話信 號として表はす 3 4 番 三番艦四番艦を 說話信號として 表はす	國際通信の場合に 「第二代表旗」	

発するときには該隊(艦)又は指示番號の信
號の発動を表はす

一、一流は艦隊全般を表はす

二、教字旗の上に加へて指示番号の艦
隊を表はす

三、左の号旗の上に加へて特殊の艦隊

又は部隊を表はし教字旗を其の下に

加へて指示番号の当該艦隊又は部隊

を表はす

特殊の部隊及び指示番号の当該部隊を

表はす隊名信号の下に隊旗を加へ

て特殊の隊及び指示番号の当該隊を表

はすはの場合錯誤を生ずる虞なきと

きは艦隊旗を首飾することを得

◎聯合艦隊

A 青軍(甲軍)

B 赤軍(乙軍)

C 主力部隊

D 前進部隊

E 先遣部隊

C 隊 主 隊

D 隊 前 衛

E 隊 先 遣 隊

例

艦 艦隊全般

艦 第三艦隊

艦 D 前進部隊

艦 D 隊 前 衛

艦 F 1 第一航空艦隊

艦 N 2 隊 第二支援隊

艦 N 2 隊 第二支援部隊

艦 U 3 第三常設部隊

(第十三艦隊)

艦 U 3 隊 第三常設隊

(U 3 隊)

艦 X X 2 第四十二掃海部

隊

船

艦

隊

工



註

演習部隊に編入丁定の部隊を演習

F 航空艦隊	G 警戒部隊	H 南遣艦隊	I 奇襲部隊	J 機動部隊	K 遠支艦隊	L 洞屋部隊	M 敷設部隊	N 支援部隊	O 護衛艦隊	P 補給部隊	Q 巡邏部隊	R 練習艦隊	T 攻艦部隊	U 索敵部隊	V 哨戒部隊	W 封鎖部隊	X 掃蕩部隊	Y 夜戰部隊
G 隊	I 隊	J 隊	L 隊	M 隊	N 隊	O 隊	P 隊	Q 隊	T 隊	U 隊	V 隊	W 隊	X 隊	Y 隊				
警戒隊	奇襲隊	機動隊	洞屋隊	敷設隊	支援隊	護衛隊	補給隊	巡邏隊	攻艦隊	索敵隊	哨戒隊	封鎖隊	掃蕩隊	夜戰隊				

戰隊

才



開始前に表はこんとするととき亦右に準ずることを得

一、一流は戰隊(水雷潜水艦)空警備防備戰隊を除く全般を表はす

二、數字旗の上に加へて指示番号の戰隊(水雷潜水艦)空警備防備戰隊を除くを表はす

三、左の文字旗の上に加へて海面防備部隊海上護衛隊及特殊の戰隊を表はす

四、警備防備戰隊、海面防備部隊の所屬鎮守府名を表はす要ある場合は当該隊名信號の下にA横須賀、B、呉、C佐世保、D青島の文字旗を加ふるものとす

五、海上護衛隊を表はす隊名信號の下に數字旗を加へて指示番号の海上護衛隊を表はす

六、海上護衛隊 K 警備戰隊

例

戰

戰隊(水雷潜水艦)空警備防備戰隊を除く全般

戰 3

第三戰隊

戰 U 4

第十四戰隊

戰 K

警備戰隊全般

戰 G B

吳防備戰隊

戰 L

巡洋艦戰隊全般

戰 E 1

第一海上護衛隊



戰 F A

横須賀海面防備隊

隊

国際通信の場合には

「數字旗、四」

名		
潜水戦隊	水雷戦隊	
ン	。通	
		
<p>一、一流は潜水戦隊特設潜水戦隊を含む全般を表はす</p> <p>二、数字旗の上に加へて指示番号の潜水戦隊を表はす</p> <p>三、特設潜水戦隊の各所属鎮守府名を表はす要ある場合は本旗の下にA横須賀、B呉、C佐世保、D舞鶴の文字旗を加ふるものとす</p> <p>四、丁旗の上に加へて潜水部隊を表はす</p>	<p>一、一流は水雷戦隊全般を表はす</p> <p>二、数字旗の上に加へて指示番号の水雷戦隊を表はす</p> <p>三、左の文字旗の上に加へて特殊の隊を表はし数字旗を其の下に加へて指示番号の常設隊を表はす</p> <p>A 駆逐聯隊 E 煙幕隊</p> <p>M 探信掃蕩隊</p>	<p>正海軍部隊 七巡洋艦隊</p> <p>G 防備戦隊 M 戦艦戦隊</p>
<p>例</p> <p>潜 潜水戦隊全般</p> <p>潜2 第二潜水戦隊</p> <p>潜B 呉潜水戦隊</p> <p>潜丁1 第一潜水部隊</p> <p>国際通信の場合には</p> <p>「数字旗」ハ</p>	<p>例</p> <p>水 水雷戦隊全般</p> <p>水2 第二水雷戦隊</p> <p>水Q9 第九十九水雷戦隊</p> <p>水A2 第二駆逐聯隊</p> <p>水M5 第五探信掃蕩隊</p> <p>国際通信の場合には</p> <p>「数字旗」ト</p>	

航空戦隊

中



し其の下に數字旗を加へて指示番号の潜水部隊を表はす

一、一流は航空戦隊全隊を表はす
二、數字旗の上に加へて指示番号の航空戦隊を表はす

三、①旗の上に加へて航空戦隊中の航空母艦全隊を表はす

四、船名旗の上に加へて航空戦隊中の艦船全隊を表はしW旗を其の下に加へて水上機を搭載せる艦船全隊を表はす

五、左の文字旗の上に加へて特殊部隊を表はし數字旗を其の下に加へて指示番号の当該部隊を表はす

A 航空戦隊 K 艦上機部隊

B 空襲部隊 L 聯合航空隊附属艦

F 空襲隊 W 水上機部隊

例

航空戦隊全隊

第一航空戦隊

航空戦隊中の航空母艦全隊

航空機を搭載せる艦船全隊

水上機を搭載せる艦船全隊

第一航空戦隊

第一空襲隊

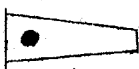
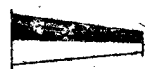

第十聯合航空隊

隊附属艦

第三水上機部隊

國際通商リ聯合は

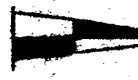
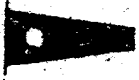
「數字旗」

潜水 水 ス ト	海 ソ	駆 逐
		
<p>一、一流は潜水隊全般を表はす</p> <p>二、数字旗の上に加へて指示番号の潜水隊を表はす</p>	<p>一、一流は掃海隊特設掃海隊を含む全般を表はす</p> <p>二、数字旗の上に加へて指示番号の掃海隊特設掃海隊を含むを表はす</p> <p>三、丁旗の上に加へて前部掃海隊を表はし其の下に数字旗を加へて指示番号の前部掃海隊を表はす</p>	<p>一、一流は駆逐隊全般を表はす</p> <p>二、数字旗の上に加へて指示番号の駆逐隊を表はす</p>
<p>例</p> <p>潜水隊全般</p> <p>第二潜水隊</p> <p>第三十六潜水隊</p> <p>国際通信の場合</p> <p>数字旗、二</p>	<p>例</p> <p>掃海隊全般</p> <p>第一掃海隊</p> <p>第六十掃海隊</p> <p>前部掃海隊</p> <p>前部掃海隊</p> <p>国際通信の場合</p> <p>数字旗、六</p>	<p>例</p> <p>駆逐隊全般</p> <p>第一駆逐隊</p> <p>第二十三駆逐隊</p> <p>国際通信の場合</p> <p>数字旗、五</p>

別

航空
空
ク

艦
艦
セ



一 一流行艦隊(特設艦隊を含む)全
般を表はす

二 数字旗の上に加へて指示番号の艦
隊特設艦隊を含むを表はす

三 左の文字旗の上に加へて夫々指示
隊特設隊を含むを表はし其の下に数
字旗を加へて指示番号の当該隊を表
はす

A 水雷隊

G 砲艦隊

B 哨戒艦隊

M 敷設隊

C 監視艦隊

T 魚雷艦隊

H 砲艦隊

一 一流行航空機全般を表はす

二 特種(隊)の航空機は本旗の下に艦所名

信号旗字錯誤の虞なきときは区別

旗を省略しを加へて其の全般を表

はし其の下に数字旗を加へて当該

番号の航空機を表はす

四 錯誤の虞なきときは其の所属航空

機の指示信号には艦所名信号を省

例

⑤ 駆潜隊全般

⑤ X 5 第四十五駆潜隊

⑤ A 1 第一水雷隊

⑤ B Y 2 第五十二哨戒艦隊

⑤ C Z 5 第六十五監視艦隊

⑤ H 3 第三砲艦隊

⑤ G 2 第二砲艦隊

⑤ M U 2 第十二敷設隊

⑤ T 魚雷艦隊

国際通信の場合は

「数字旗、九」

例

空 航空機全般

空 〇 L 〇 L 艦所所属航

空 〇 L 〇 L 艦所所属航

空 〇 L 〇 L 艦第一号

機

海防力



略するものとす

三、一流又は航空機名のみを掲げて他に信号を掲げるときは該航空機は之を掲げたる艦所に速に集合(帰投)すべきことを表はす

四、短艇旗の上に加へて現に飛行中の航空機は速に其の所属艦(隊)(陸上航空隊を含む)に帰投すべきことを表はす

一、一流は海防隊全般を表はす

二、数字旗の上に加へて指示番号の海防隊を表はす

三、左の文字旗の上に加へて特設特殊部隊の種別を表はし其の下に数字旗を加へて指示番号の当該隊を表はす

A 根拠地隊 丁 測量隊(班)

B 防衛隊 K 警備隊

E 收容隊 L 嚮導隊

I 港務部 N 設営隊

例

海 海防隊全般

海 2 第二海防隊

海 A 2 第二根拠地隊全般

海 B 2 第二防衛隊

海 E 收容隊

海 I 3 第三港務部



海 J 1 第一測量隊(班)

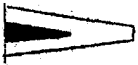
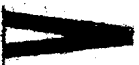
海 K 3 第三警備隊

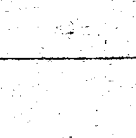

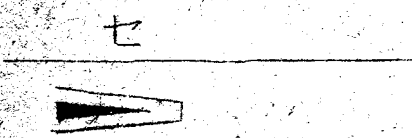
海 L 2 第二嚮導隊

国際通信の場合



海 N 4 第四設営隊

所名 シ	短艇 多 短艇 別名 招艇旗
	
<p>一、一流は見張所、信号所、防備衛所等特設のものを含むを表はす</p> <p>二、号旗の上に加へて前号各固有所名を表はす</p>	<p>一、一流は前屈短艇全般を表はす</p> <p>二、号旗の上に加へて前屈の指示短艇名を表はす</p> <p>三、一流又は号旗の下に加へたるものを船名信号の下に加へて其の船名前屈の短艇を表はす</p> <p>四、A旗の上に加へて短艇隊全般を表はし其の下に数字旗を加へて指示番号の短艇隊を表はす</p> <p>五、指示短艇短艇隊の指示信号のみを掲げて他の信号を掲げるときは指示短艇短艇隊は速に之を掲げたる艦に集合(帰投)すべきことを表はす</p> <p>六、海軍作戦通信略語を旗旗信号にて行う場合本旗を略語の下に加ふる</p>
<p>「短艇旗、三」</p> <p>国際通信の場合に</p> <p>「数字旗、三」</p>	<p>例</p> <p>短艇 前屈短艇全般</p> <p>短シロ 前屈第一「カ」</p> <p>短A2 第二短艇隊</p> <p>船⊙A短 船⊙A短の短艇全般</p> <p>船⊙A短K3 船⊙A短の第一短艇</p> <p>短艇名信号符号は常用信号書に定むるものを使用す</p>

官名	船名	
ア	×	
		
<p>一、一流は自己の運動に徴しを要せざる者は一級運動作業に徴し能はざるを表はす(夜間は紅緑二燈を連掲して之に代ふ)</p> <p>二、他の信号の上に連続するときは一、二、三、不図旗として使用する本旗と共に</p>	<p>一、一流は海軍艦船全船を表はす</p> <p>二、号旗の上に加へて艦船名又は外国海上部隊名を表はす</p> <p>三、A旗の上に加へて所在領守府警備所所屬艦船を表はす</p> <p>四、左の文字旗の上に加へて夫々当該領守府在籍艦船を表はす</p> <p>Y 横須賀 K 吳 S 佐世保 M 舞鶴 H 旗の上に加へて統監部所屬艦船を表はす</p>	<p>きは其の旗は連掲することゝ表はす</p>
<p>例</p> <p>計1官2 一一二</p> <p>計3官 三三</p> <p>方3官2 針路三三二度</p> <p>官船①A ①A艦艦長</p> <p>官船1 第一艦隊司令長官</p>	<p>例</p> <p>船 海軍艦船全船</p> <p>船 Y 横須賀領守府在籍艦船</p> <p>船 A 所在領守府警備所所屬艦船</p> <p>船 H 統監部所屬艦船</p>	

不別名 又紅字 一又紅字 代表旗	信 中繼	地 別名 交點 以旗
		
<p>他の信号を掲げるときは本旗を半揚 〔半下〕するものとす</p> <p>四、艦所名信号の上に加へて当該艦所 の最高指揮官名を表はす</p> <p>五、一綴の旗號信号中本旗を以て第一 数字旗を代表せしむることを得</p> <p>註 不関係又は代表符として使用せず</p> <p>信号艦所名に加へて不位の艦所より と位の艦所への信号の中継を表はす</p>	<p>一、一流は整備を表はす（夜間は緑燈一 個を以て之に代ふ）</p> <p>二、信号旗の上に加へて作戦用地桌を 表はす此の場合信号旗は和音名稱に て読むものとす</p> <p>三、文字旗の下に加へて特定地桌暗語 表又は海軍暗号書籍に於る地桌を表 はす</p>	<p>例</p> <p>地DEFI 3</p> <p>「本ヘチ」地桌</p> <p>B 地 特定地桌暗語表</p> <p>N A B 地に於る地名</p> <p>E B R D 地海軍暗号書籍</p> <p>H F R S 地に於る地名</p> <p>数字旗を代表せしむる場合</p>
<p>例</p> <p>④ A 中 B H</p> <p>B H 艦より④艦への中 継を表はす</p> <p>2 中 4</p> <p>四番艦より二番艦への 中継を表はす</p>	<p>例</p> <p>④ A 中 B H</p> <p>B H 艦より④艦への中 継を表はす</p> <p>2 中 4</p> <p>四番艦より二番艦への 中継を表はす</p>	<p>例</p> <p>④ A 中 B H</p> <p>B H 艦より④艦への中 継を表はす</p> <p>2 中 4</p> <p>四番艦より二番艦への 中継を表はす</p>

[illegible]

<p>問答</p> <p>コ</p>	<p>和音</p> <p>守ス</p>		
<p>一、旗流の上に加へて其の旗旗は旗名 稱又は羅馬字文として読むことを表 はす（錯誤の虞なきときは省略するこ とを要す）</p> <p>二、説話信号の下に加へて其の信号は 起語を乞ふの信号をなすことを表はす</p>	<p>一、一流は手旗（発光）信号の指呼、施信 解信を表はす</p> <p>二、旗流の上に加へて其の旗旗は和音 名稱又は通軍通信略語信号として解 読すべきことを表はす</p> <p>（発光、発音、水中信号には適用せず）</p>	<p>なせ「B(B)」</p> <p>石鯛へB法科雷艇をな せ</p> <p>二、「甲種訓練をなす」</p> <p>甲種訓練をなし宜しき や</p>	<p>例</p> <p>船和 總艦船への和音指呼 番一和 一番艦への和音指 一和 時 船P和 P艦への和音指 P和 時 和B方Y ハシケ（艇） 和T XムX</p> <p>経緯度信号例</p> <p>一、信号符号を用いる場合</p> <p>GDN 疑</p> <p>北緯二八度〇分</p> <p>C F E 疑</p> <p>東経一二度三〇分</p> <p>G D 2 N 疑</p>

別

疑ギ
別名
疑間
旗經緯度

七



④ 緯緯度を同時に信号するときには上
位の信号は緯度を下位の信号は経
度を表はす

(ロ) 経緯度信号表示法

(一) 信号符号を用いる場合

一、 信号符号の下に本旗を添へ
て緯度経度を表はす

緯度経度を一級として表はす
場合下位の本旗は之を省略す

二、 緯度経度を分位迄表はさん
とするときは五十分迄表はす

信号符号の下に所要分位に相
当する数字旗を加ふるの外一
頂に準ず

二 信号符号を用いざる場合

錯誤の虞なきときは緯度経度の
分位に相当する数字旗の中間に
本旗を加へ緯度経度を表はすこ
とを得此の場合上位の数字は緯
度と下位の数字は経度を表はす

北緯二八度二分

G D N O 疑 C F E A

天測緯度

北緯二八度〇分

推定経度

東経一一度三〇分

G D 疑 C F O

陸測位置

緯度二八度〇分

経度一一度三〇分

三、 信号符号を用いざる場
合

合

8 疑 3 2

緯度一八度八分

経度一八度三二分

8 疑 3 2 A

推定緯度一八度八分

推定経度一八度三二分

8 0 疑 3 2 A

天測緯度一八度八分

ものとする但し数を表はすHQT
旗は本項に於て之を数字旗と見
做す

(三) 左の文字旗を経緯度信号の下区
別旗の上に加へて左の區別を表
はすことを得

N 北緯 E 東經
S 南緯 W 西經

(四) 緯度經度測定の方法を表はすに
は(三)項文字旗の下文字旗を使用
せざるときは其の位置に左の文
字旗を加ふ但し緯度經度の測定
方法同一なるときは上位の本旗
は之を省略す

A 推定 O 天測

C 陸測 R 無線方位

(五) 経緯度信号と同時にK旗を掲ぐ
るときは其の經度には百度を加
ふるものなることを示す

四、船名信号の下に加へて該船名型を



指定經度一度三分

船名型を表はす例

船 AG 2 號 レキシント

ソ型

符 旗

<p>標 時</p>	<p>否 信</p>	
<p>ト</p>	<p>三</p>	
		
<p>一、一演は時刻整合を表はす</p> <p>二、号旗二個よりなる符字の上に加へて海軍信号書に依る標時信号を表はし数字旗四旗の上に加へて錯誤の虞なきときは標を省略することを得</p> <p>三、十四時間式の時刻を表はす</p> <p>三、標時信号二個を一綴として表はす</p>	<p>一、一流を他の信号と同時に掲ぐる時は其の信号を取消することを表はす</p> <p>二、說話信号の上に加へて其の信号の意味を打消取消取止に交じ又はするに及び若は作業改達の復旧等の意味を表はす</p> <p>三、一綴の旗旗信号中本旗を以て第三数字旗を代表せしむることを得</p> <p>註、代表符として使用せず</p>	<p>表はす</p> <p>五、海軍作戦通信略語を旗旗信号にて行ふ場合略語の下に本旗を連続して信号の意味を疑問に交す</p>
<p>例</p> <p>標 T 2 本日午後</p> <p>G I 標 S O 午後三時</p> <p>DO 標 J 3 午前十時</p> <p> 午後四時</p> <p> 四十五分迄</p>		<p>例</p> <p>計 3 5 5 否 三 五 五</p> <p>計 1 官 地 否 一 一 一</p>

交 信 區 別						間 索	
起 信	應 信	解 信	終 信	消 信	略 語 リ ヤ		
		ナ					
信号を起ししこととを表はす	信号に應ずることとを表はす	信号了解を表はす	信号終了を表はす	信号取消を表はす	海軍通信略語を用いる場合本符を略語の前後に和、小誤の虞なきときは省略することを得	<p> 場合は上位の本旗を省略するものと する但し此の場合三個の標時信号が同 一資格のものなるときは「……より……」 迄を表はす 註 時刻整合符として使用せず 同一場旗線に信号符字（略語を含む）二 個以上より成る符字文を掲揚する場合 各符字間に綴りて其の句切りを示す 錯誤の虞なきときは省略することを得 </p>	<p> 標①①ー①⑤ 千前零時十 五分 ①①①⑤①①①⑤ </p>

記号					符号	
読 号	句 号	新 章	括 弧	小 括 弧	番 号 令	略 語
平文中数字の奇率及整数と分率との句切を表はす	各信号符号、羅馬字間、各略語間、指定符と本文との間、信号文各句間、信号文中の番号の数字符と本文との間及本文と交附時刻との間等に用ひ其の句切を表はす	別個の信号文の句切を表はす	本文中に註解又は名詞等を挿入したる場合之が解説に便ならしむるの要あるとき本符を其の前後に加ふ	三三編以上の羅馬字又は信号符号を連続して送信する場合には本符を其の前後にのみ加ふ	羅馬字又は信号符号を表はせんとするとき本符を其の前後に加ふ但し 一 指呼、中継、飛信、解信に使用す信号總所名に適用せず 三三編以上の羅馬字又は信号符号を連続して送信する場合には本符を其の前後にのみ加ふ	海軍作戦連絡略語を用ふる場合本符を略語の前語に加ふ誤解の虞なきときは省略することを得

符	除線	緊急信	至急信	照校信
分數を表はすに分子と分母の間に本符を置くものとす				
海軍作戦通信略語の下に相へて信文の意味を疑問に交す				
電報転送の場合無線通信に於て脱字箇所を表はす				
指定符以外に用ゐるときは「照校」を表はす				

腦所名信ヲ互説話信ヲとして表はす場合は第十七、第十八、第十九條を準用す此の場合描寫體
 ①（錯誤の虞なきときは省略することを得は其の最下に加ふるものとす

交信と榊旗符罫の名稱を呼稱するに日本條第二号表中振假名若は別名に依るを例とす

區別旗符を略書するには其の略字に依るを例とし場合に依り和言名稱に括弧()を附したるものを以てすることを得




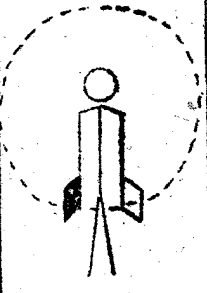

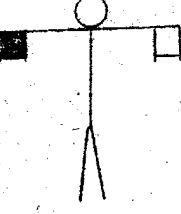

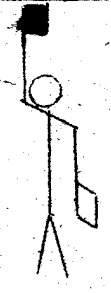
但し此の場合潜水、駝着、航空、海防及所名の各旗に対しては夫々㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

第二節 手旗形象の種別、作爲法及其の用法

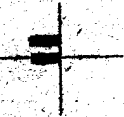





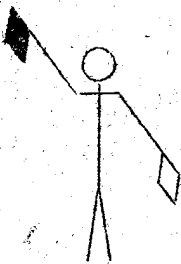
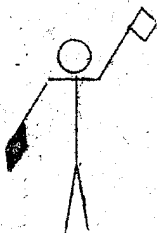
第十三條 本信号を行ふには右手に赤色手旗左手に白色手旗を持つて之例とするも其の他適當のもの

又は徒手を以てするものとを得

第十四條 手旗信号の形象種別、作爲法及其の用法男左の如し


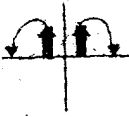
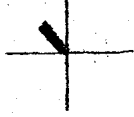

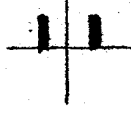
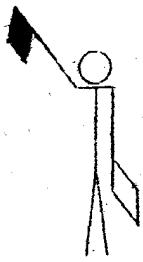
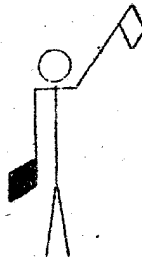
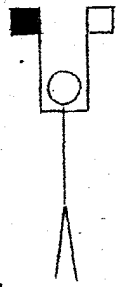
別名	種別	作爲	用法	用法
原姿		両手を垂直に垂る		
第原割		石手を以て垂下の位置より正方に廻し一門を畫く		
第原割		両手を左右水平に出す		
第原割		左手を垂れ右手を垂直に構へ 但し「及至」の第二		

割

第六原	第五原	第四原	第三原	
				
<p>石手を石方水平に左手を頭より石方水平に出す</p>	<p>両手を頭上に交叉す</p>	<p>石手を右四十五度上左手を左四十五度下に出す</p>	<p>左手を左四十五度上石手を石四十五度下に出す</p>	<p>刃を置くときに隠り石手を垂直に左手を垂直に揚ぐ</p>
				

形

第十一 原割	第十 原割	第九 原割	第八 原割	第七 原割
両手を左方四十五度 より右方四十五度 下に振り下す	両手を左右四十五度 上に揚ぐ	石手を石方水平に左 手を右手の下方約三 十五度に出す	左手を垂れ石手を石 方水平に出す	右手を垂直に揚げ左 手を左方水平に出す


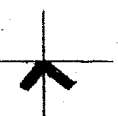
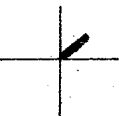


交		象		
施 信	起 信	原 第 割 十 四	原 第 割 十 三	原 第 割 十 二
				
<p>両手を交々上下に振ること数回</p> <p>三旗を直直又は交叉して并手に之を持つて上方に掲げて右の方法に模倣することを得</p>	<p>両手を垂直に上げ各五石水平に振ること数回</p>	<p>左手を垂れ 右手を四十五度上に 掲ぐ</p>	<p>右手を垂れ 左手を四十五度上に 掲ぐ</p>	<p>両手を垂直に掲ぐ</p>
				
	<p>信男を始むることを表はす</p>			

	象	形	別	區	信	消
発 動	略 水 語 戰	略 × 語	解 信	終 信	中 繼	消 信
<p>発動用意、石手を四十五度上に掲げ</p> <p>第四原則</p>	<p>片殿名作扇法リサに同じ</p>	<p>両手を左右下方四十五度の位置に出し之を下方に交叉すること一回</p>	<p>両手を垂直に掲げ並行せる際左右に振ること一回</p>	<p>第十二原則</p>	<p>両手を石手斜前四十五度上に出し之を前方に交叉すること一回</p>	<p>両手を石手四十五度上に掲げ上下に振ること一回</p>
<p>手旗信号の発動を表はす</p>	<p>象を其の前後に加ふ錯誤の虞なきときは省略することを得</p>	<p>海軍作戦通信略語を用ふる場合本形象を其の前後に加ふ錯誤の虞なきときは省略することを得</p>	<p>信号了解を表はす</p>	<p>信号終了を表はす</p>	<p>信号中継を表はす</p>	<p>信号全部若くは一部取消を表はす</p>

形

号

記

小指弧 (小指)	中指弧 (中指)	数字 (数字)	新 草 字	句 ・ 点	
					
右手を垂れ左手を左方水平に出す	両手を左右下方四十五度に出す	第十三原則	第七原則	第十四原則	発動、右手を下す
羅馬字又は信号符号を其の前後に加入するときは本形象を其の前後に加入し、但し二個以上の羅馬字又は信号符号を連絡して送信する場合には本形象を其の前後にのみ加入	平文中に註解又は名詞等を挿入したる場合之が解読に便ならしむるの要あるとき本形象を其の前後に加入	信号文中に数字を挿入せんとするときは此の形象を前後に置き其の向に所要数字に相当する番号の原則等より九に至る迄を表示す	別個の信号文の句切を表示す	各信号符号(羅馬字)間、各略語間、信定符と本文との間、信号文各句間、信号文中の番号の数字と本文との間及本文と交付時刻との向等に用い其の句切を表示す	

象		
読 、 吳	歸 除 線	同 符 ?
左手を重れ右手を右方四十五度下に出す	第十一原則	右手を重れ左手を左方四十五度下に出す
数字、形象内の数字同に小数字同に 教を挿入せんとするときは本形象を其 の前に置く	分教を表はすには分子と分母の間に 本形象を置く	海軍作戦通信略語の下に加へて信 文の意味を疑問に変ず 電報転送の場合無線通信に於て電 字面則を表はす

記号形象使用例

例一 数字形象読点歸除線用法例

「距離五海里東を表はすには

キヨリ、数字形象、第五原則、読点、第三原則、歸除線、第四原則、数字形象、マイルヒカシ

例二 小括弧用法例

信号符号「A B M」を表はすには

小括弧イハヨ小括弧

例三 括弧用法例

平文「ピラド(地名)」を示すには

ピラド括弧チメイ括弧

第十五條 片假名(羅馬字)形象の作爲は左表に示す如く第一乃至第十四原則を組合せて之を表はす一
字を畫くには一動より直に次動に移り終らば直に原姿に復し次の字に移るを例とす

┆	＼	—	=	∖	└	／	第一動	作
、		┆			┐	┆	第二動	為
		∖					第三動	法
(ト キ ワ)	(ヘ イ タ イ)	(ホ ー セ ウ)	(ニ ツ シ ン)	(ハ ル ハ ナ)	(ロ ー ザ ン)	(イ ワ イ テ)	(音 讀 稱)	和音名稱
	E	D	C	B		A	羅馬字名稱	
┐	┆	—	／	┐		└	第一動	作
／	┐	┐	└	＼		┆	第二動	為
							第三動	法
(カ ラ サ ギ)	(ワ カ バ)	(ヲ ト コ)	(ル ッ ボ)	(ヌ マ カ ゼ)	(リ ギ ン)	(チ ト ビ)	(音 讀 稱)	和音名稱
L	K	J		H	G	F	羅馬字名稱	

、	ー	フ		、	L	//	7
7	/	1	/	、		、	=
		ー					
シ ン テ	ナ ガ ナ ト	ネ ノ 子 ネ キ	ツ シ ツ マ	ソ ー カ ソ イ	レ キ ザ ン	タ ツ タ タ	ヨ 、 ヨ ド
S	R	Q	P		O	N	M
7	7	//	ー	/	=	=	L
、	\		1			7	、
			/				
マ ミ ヤ	ヤ ク モ	ク ク マ	サ イ オ	ノ ト ロ	井 井 ド	ウ ラ カ ゼ	ム ム ユ
X	W	V				U	T

=	—	7	=	—	7	7	L
I	II	/	/	I	—		/
				—			
(キ リ シ マ)	(サ セ サ ホ)	(ア サ ア マ)	(テ ン リ ウ)	(エ リ エ モ)	(コ ン ゴ ー)	(ラ ソ フ ー)	(ケ ン カ イ)
						Z	Y
7	=	—	7	、	=	/	7
L	L	L	/	L	—	、	—
			—				
(セ ッ ゼ ッ)	(モ ガ モ ミ)	(ヒ ウ ガ)	(カ ヤ エ)	(シ キ ナ ミ)	(ミ カ サ)	(メ ガ ホ ン)	(ユ ー カ ゼ)

備考 音読練習は音読の錯誤を防ぐため使用する

\	/		、	—
			—	
				、
(半シ 濁ダ。) 奥)	(濁ダ 〃) 奥)	(長ミ) 音)	(ウ ン テン)	(ス ノ サ ギ) 寸
	I			

第四軍 交信表示法

第一節 指呼表示法

第十六條 信号艦所を指呼するには一般に艦所名信号を用ふ之を指呼信号と稱し之に対し信号を爲すことを表はす

第十七條 二個以上の信号艦所名（航空機名を除く）を同時に表はす場合は錯誤の虞なき限り之を一綴とするを例とす

例

驅逐隊

驅逐隊、潜水隊

船○P隊2

○P艦、二番隊

但し

(イ) 二個以上の艦所名が同一區別旗符なる場合區別旗符は最上位のもの一個を用ひ他は之を省略す

例

船○P2X

○P艦、2X艦

戦123

第一、第二、第三戦隊

番234

二番、三番、四番艦

隊23

二番隊、三番隊

艦F1F2

第一、第二航空艦隊

(ロ) 二個以上の艦所名が十以上の数(A、O、P、Q、U、V、W、X、Y、Z)を使用の場合にて表はさるる部隊(艦船)番号なる場合同一文字旗符は其の一個のみを採り之に數字旗符を部隊(艦船)番号順序に綴るものとす

例

艦 8 V 6 7

第八 第二十六、第二十七駆逐隊

● V ● W 2 3

第二十、第三十二、第三十三潜水隊

第十八條 信号艦所名中其の一部を除き残りの大部を表はすには所要艦所名の下に否信号符を加へ其の下に除くべき艦所名を加ふるものとす

但し

(イ) 兩者の區別旗符同一なるときは下位の區別旗符は之を省略するを例とす

例

船否 ● V
名下位の艦の略

● V 艦を除きたる總艦船

艦 1 否 P
名下位の艦の略

● P 艦を除きたる第一艦隊全級

(ロ) 単隊内の信号に在りては部隊名を省略するを例とす

例

否番 2
省部隊名

二番艦を除きたる単隊全部

第十九條 某隊所居の某隊艦を表はすには區別旗符を下に加へたる所居隊名の下に某隊艦名を加ふるものとす

但し兩者の區別旗符同一なるときは其の一流を省略するを例とす

例

2 艦 P
流艦隊略

第二艦隊の補給部隊

2 潜 ● S

第二潜水戦隊の各司令潜水艦

2 水 A 1
流艦隊略

第二水雷戦隊の第一駆逐連隊

三 軍隊中の一艦より所屬隊に「第一」を通報したる艦名なりとき（第一に誤りあり）

四 発着信艦所互に明瞭なるとき

五 航空機より艦前に信号をなすとき

六 応信を要求せざる信号をなすとき

七 緊急說話信号をなすとき

第二節 中継表示法

第二十二條 中継の表示法左の如し

一 着信艦所名の下に中継旗符を加へ其の下に発信艦所名を加へて一般中継信号を表示す

但し

(イ) 発着信艦所の區別旗符が船名旗符又は番号旗符なるときは錯誤の虞なき限り之を省略することを得

例

船中◎A ◎A艦より總艦船への中継

B1中◎B ◎B艦よりB1艦への中継

2中4 四番艦より二番艦への中継

(ロ) 錯誤の虞なきときは発着信艦所名を省略することを得

例

戦3中 長官旗艦より第三戦隊への信号を某艦が中継するとき

二 招呼信号を省略せる場合(第二十一條)の中継には前号に準じ発着信艦所名を表示するものとす
但し錯誤の虞なきときは着信艦所名を省略することを得

例

1 中 3

中 3 官

三 発信艦所と同一信号を以て中継を表示する場合左の如し

(イ) 各隊指揮官乗艦より其の隊全艘になす信号の隊内中継(常時在に於ける針路信号之に準ず)

(ロ) 軍隊指揮官乗艦より其の直属部隊の一部になす信号の隊内中継

第二十三條 手旗(燈光)信号をなすため旗旗招呼信号の中継表示法左の如し

但し 錯誤の虞なき場合には中継表示信号中の船名旗又は番号旗之を省略することを得

一 着信艦所名の下に和音旗を加へ其の下に発信艦所名を加へて中継信号を表示す

例

船和 ① K

1 2 和 4

① 和 H K

① K 艦より総艦船への中継、

四番艦より一番艦及二番艦への中継

H K 艦より親艦への中継(水雷艦隊内使用例)

二 中継艦所を指定する場合の表示法左の如し

中継艦所に対する招呼信号の下に和音旗を加へ其の下に着信艦所名を連綴す

例

① A 艦より 2 H 艦になす信号を ② B 艦を指定して中継を為さしむるとき

発信艦所 ① A 艦にて ② B 和 1 2 H

中継艦所 ② B 艦にて 2 H 和 ① A

第三節 応信及解信表示法

二十四條 応信、解信を表示するに何時に規定あるものの外、応信旗符及解信符を用ふるもの

二十五條 応信旗符に代用して、応信解信を表はす信号左の如し

一 手旗(発光)信号の旗旗指呼に如しては和音旗

二 中継艦所同時に着信艦所たるものとミの中継信号

三 取消信号(第二十九條第四号)に如する応信にありては否信旗

四 航空機に対しては(航空機相互) 応信旗符又は和音旗の下に航空機符を加へたるもの

五 潛航中又は還流航走中の潜水艦は水中信号又は噴水信号要すれば無線電信

第二十六條 一言回頭(一言回頭之字運動を含む)の信号に如しては同一信号を以て、応信、解信を表はすものとする

但し発光信号及手旗信号にありては錯誤の虞なきときは小括弧を省略するものとを得

第二十七條 応信を表示する信号左の如し

一 危急危険又は異変を表はすB旗(二旗を一級とせるB旗を含む)及不図旗

二 殺線又は作業を通報するN旗

三 速力試験中なることを表はす回A旗

四 演習中の識別信号

五 緊急登見信号

第五章 旗旗信号法

第二十八條 旗旗信号掲揚法

一、旗旗信号は上桁に掲ぐるを例とし必要に応じて下桁、橋回索若くは橋頭、斜桁を使用す

二、二個以上より成る信号符字(略語を含む)の掲揚法及通読順序を左の通定む

(イ) 同一場旗線にありては上方より順序に連綴(通読)す

(ロ) 二本以上の場旗線に互る場合にありては左の順序に掲揚(通読)す

(一) 同一桁にありては右舷外方、同内方、左舷外方、同内方

(二) 同一橋回索にありては前方より後方

(三) 上桁、下桁、橋回索、橋頭、斜桁

第二十九條 交信法

一、起信

発信艦所は指呼信号(指呼信号は信号全部の終了するを待て降下するものとす)に就て所要の信号を掲ぐ

但し指呼信号を省略し得る場合(第二十一條)には単に所要の信号のみを掲ぐ

二、応信、解信

着信艦所は已に向てなせる信号を認むるときは応信旗を半揚し信号の意味を了解したるとき之を全揚す

但し左の場合には各其の規定に依る

(イ) 認諾を乞ふの信号に対しては認諾を与ふるときは応信旗を降下し認諾を与へざるときは本旗を全揚の終否信旗一流全揚(本否信)に対しては応信を表示せざるものとす(又は所要の信号を

付かざる後之と共に降下す

(ロ) 何れの発信艦所に如する応信なるかを暗示するの要あるときは、応信艦の下に発信艦の名

(艦旗の成るうと云は船名旗)を引ふるものとす
(其旗は之を省略することを得)

(ハ) 航空機に於ては、応信旗を用ふることなく、手旗信号発光信号又は機体の運動を以て之を表はすものとす

(ニ) 応信旗に代用する信号(第二十五條及同一信号を以て応信、解信を表はす信号(第二十六條)は、
応信旗と同様に使用して、応信、解信を表はすものとす

三 終 信

発信艦所は、着信艦所の解信を見れば所要の時機に信号を降下し、着信艦所も亦、応信旗を降下す
但し、認諾を乞ふの信号に對しては、発信艦所は、着信艦所の応信旗(認諾を乞ふと云ふは、
否信旗又は所要信号)に倣ひ、信号を降下す

四 消 信

発信艦所に現に掲揚中の信号全部又は其の一部を取消せんと欲するとき、其の信号掲揚の終否信
旗一流を掲げ、着信艦所の応信、解信、否信旗を使用するを見たる後、掲揚中の信号全部と共に之を降
下す

第三十條 中 継 法

一 一般の場合

中継艦所は、中継表示信号と共に、発信艦所と同一信号を半揚し、順次、次位の中継艦所に及ぼし、着信
艦所解信せば、最遠中継艦所より逐次に之を全揚し、発信艦所に倣ひ、各艦所信号を降下す

二 各隊指揮官兼艦より、其の隊全般になす信号の隊内中継(発信艦の掲ぐる針
以て信号に代す)

(イ) 中継艦所は凡て発信艦所と同一信号を半揚す

(ロ) 各隊旗艦(司令艦、旗艦、司令艦、水雷艦、司令艦、水雷艦等之に準ず)は自隊自己小隊の解信を見たる後縦陣列にありては最遠中継艦

艦より逐次信号を全揚す

(ハ) 中継艦所はあらざる着信艦所は各隊中継艦所の中継信号に依り信号を受信し一隊毎に其の

端末艦より逐次発信を全揚す

(ニ) 各艦所は発信艦所に倣ひ信号を降下す

三 軍隊指揮官より其の直屬部隊の一部に与す信号の隊内中継

二号に準じ中継艦所従て発信艦所と同一信号を以て中継す

四 一斉発動を要せざる場合

発信艦所は中継艦所の信号全揚を待つことなく其の半揚を見たる後自己の信号を降下するとし

此の場合中継艦所も亦之に準じ次位中継艦所の信号半揚を見て其の信号を一旦全揚したる後降下するものとす

但し最後の中継艦所にありては着信艦所の解信を待て其の信号を一旦全揚したる後降下するものとす

第三十一條 応急旗信号法

一 本信号法は橋桁等を用ひず短艇用信号旗を適宜の旗竿に附し之を艦橋附近に表示して行ふ応急信号法にして必要に依り使用することを得

二 旗竿の出し方により信号の掲揚降下を区分することと左の如し

約四十五度の仰角に出す 半揚

直立

全場

内外方に倒して収束

降下

三 交信法は天々規定の信号法に依る

第六章 発光信号法

第三十二條 発光信号 於 指呼、中継、応信及解信 使用 信号

第三十三條 交信法

一、起信及応信

起

信

應

信

(イ) 符号を以て指呼する場合

送信艦所は指呼信号を發す
但し

(一) 左の場合に起信符のみを發す

(1) 指呼信号を省略し得る場合(第二十二條)

(2) 相手艦所名不明の場合

(二) 自己名を表示する必要がある場合は指呼

信号起信符數回の後句矣 自己名一回
を發す

(ロ) 旗旗を以て指呼する場合

受信艦所は応信符を發するか又は和音燈を半
揚して之に應ず

但し

(イ) 自己名を表示する必要があるときは同應信
符に就て自己名を發す

(ロ) 何れの送信艦所に対する應信なるかを
示す必要があるときは送信艦所名(錯誤の

虞なきときは船名類、番号旗は省略す
ることを得)を連續す

(ハ) 昼間符号を以て指呼せられたる場合

年旗信号起信(第四十二條第一号)の場合に準ず
但し符号に依る指呼信号を併用するものとす

符号を以て之に即応し得ざるときは和音旗又は手旗形象を以て応信、解信を表はすことを得

例

○A艦(一番艦)より○B艦(二番艦)○C艦(三番艦)を指呼す

(自己名を表示する必要ある場合を例示す)

○A艦(一番艦)にては

○B艦(二番艦)○C艦(三番艦)にては

○B○C ○B○C句矣○A

応信符○B(応信符○C)

(23 23 句矣1)

(応信符2(応信符3))

二 送信及解信

送

信

解

信

送信艦所は受信艦所の応信を見は左の順序に送信す

(イ) 起信符(必要なときは省略す)

(ロ) 発信番号(必要なときは省略す)

(ハ) 指定符(必要なときは省略す)

(ニ) 信(信電令番号)(必要なときは省略す)

(ホ) 本文

(ヘ) 発令時刻(必要なときは省略す)

(ト) 終信符

受信艦所は送信艦所の終信を見は解信符を發するが又は和音旗を全揚す但し

(イ) 所字文にありては其の符号を了解したるとき句矣を發し意味を了解したるとき解信符を發す

(ロ) 自己名を表示する必要があるときは解信符に續て自己名を發す

(ハ) 何れの送信艦所に對する解信なるかを示す

必要あるときは送信艦所名に續て解信符を

三、海軍無線電報を転送する場合には電報の冒頭は之を本文として取扱ひ送信に先ち海軍通信略語「デン」を添ふるものとす

四、左の場合に於ては送信艦所は受信艦所の応信を待つことなく「起信符」を収回、本文、句矣、自己名(必要なきときは句矣と共に省略す)を連送するものとを得

(イ) 正規の電信法に依るときは交信の時機を失する虞あるとき

(ロ) 受信艦所が応信準備整はざるため応信の表示遅るものと認めらるるとき

五、作戦上又は其の他の理由に依り受信艦所の応信及解信の表示を不利とし又は必要とせざる時は送信艦所は指呼信号の前に海軍通信略語「ホ」を本信号は放送信号なり(収回を免し)受信艦所は応信解信を表示せざるものとす

六、長文の信号文は左の如く交信するを例とす

(イ) 信号文を数句(章)に分ち送信艦所は各句(章)毎に受信艦所の解信を待て送信するを例として即ち送信艦所は句矣(新章)を免し受信艦所の同一符を以て応ずるを待て次句(章)に移るものとす此の場合送信艦所は送信に先ち海軍通信略語「カ」を免し受信艦所の海軍通信略語「ハ」を以て

免するが又同和音調の下に送信艦所の名(艦名)の虚なきときは船名旗、番号旗は之を省略するものとを得(連綴全揚す)

(ニ) 一斉回頭信号(一斉回頭之字運動を含む)に対しては同一信号を以て解信を表示す(錯誤の虞なきときは前後に附する小括弧を省略することを得)

応ずるを待て本文の送信を開始することを得

(ロ) 遅延を要する場合に、は信号文を前後而段に区分し同時に送信することを得此の場合に於て

(一) は 指呼信号の下に番号符(旗)を連続す

(二) 本文の前に前段には海軍通信略語「マ」後段には海軍通信略語「ア」を加ふ

消信及再送

状 況	送 信 の 場 合	受 信 の 場 合
<p>(イ) 送信(受信)中誤字、脱字又は不確呼等を生じ再送(再送)を要求せんとするとき</p>	<p>(イ) 直に消信符を發し其の誤字、脱字、不確字又は適宜の字(信号符字)に於ては其の符字の起端より番号起頭等にあつては其の行の始より再送す</p>	<p>(イ) 直に消信符を發す 送信艦は同一符を以て て應じ中欄に準じ再送す</p>
<p>(ロ) 送信(受信)の中途其の信号文全部を取消し再送(再送)を要求せんとするとき</p>	<p>(ロ) 消信符に繼て起信符を發し受信艦の應信符を以て應ずるを見て再送す</p>	<p>(ロ) 消信符に繼て應信符を發す 送信艦は同一消信符に繼て起信符を發し再送す</p>
<p>(ハ) 送信中其の信号全部を取止めんとするとき</p>	<p>(ハ) 消信符に繼て終信符を發す 受信艦は同一符消信符に繼て終信符を以て之に應ず</p>	

一般の場合

(イ) 中継艦所は中継表示信号を発す

但し錯誤の虞なきときは発信艦の名を省略することを得

(ロ) 発信艦所は中継艦所の中継表示信号を見れば着信艦の名、中継所、発信艦の名に就て自ら信号を送る(錯誤の虞なきときは発信艦の名又は中継表示信号を省略することを得)

(ハ) 中継艦所は発信艦所に対し解信符を発したる後発信艦所と同一法に依り更に第二の中継艦所に受継ぎ以下同一要領に依り順次着信艦所に及びすものとす

(ニ) 中継艦所を指定し中継を行はしむる場合には発信艦所は中継艦所を指呼し其の応答を得て着信艦の名、中継所、発信艦の名(錯誤の虞なきときは発信艦の名を省略することを得)に就て所要の信号を送信す以下中継艦所は前項に準じ中継に任ずるものとす

(ホ) 解信符の返送を必要とするときは発信艦所は本文の始終に海軍通信略語へヨを加ふ此の場合着信艦の信号を了解せば最速中継艦所より逐次発信艦の名(必要なきときは省略す)発信番号(必要なきときは省略す)、解信符、着信艦の名を送り発信艦所に至るものとす

(ヘ) 中継艦所又は着信艦所他の中継艦所の中継を行はすして既に信号を了解したるときは其の中継表示信号に対し直に解信符を発するものとす

二 各隊指揮官乗艦より其の隊全般又は直隷部隊の一部に於て信号の中継

に於ける外旗旗信号法に準ず

(イ) 隊全般に対するものは各旗艦司令、駆逐艦、司令潜水艦、司令水雷艦、司令掃海艇等之に對すは自己隊名(隊番号)中継所を形し同一信号を以て中継し自隊の解信を見て解信符、自己隊名(隊番号)を省略することを得

(ロ) 隊番号(隊番号)を省略することを得

(ロ) 一部部隊を除くに對するものは一号に準ず

例一

- A艦より○H艦への信号を○B艦が中継する場合
- B艦は ○H中○Aを發す
- A艦は ○H中○Aに續て所要の信号文を送る

例二

- A艦にて○B艦を指定し○H艦への信号を中継せしむる場合
- A艦は ○B叔回又は起信符を發す
- B艦は 応信符叔回 を發す
- A艦は ○H中○A に續て所要の信号文を送る

三 旗流を以て行ふ場合

手旗信号中継法(第四十三條第二号)に準ず

第三十五條 照 校 法

一、受信艦前全部に照校せしむる場合

送 信 艦 前	受 信 艦 前
<p>(一) 信号文の前(照校箇所を指定する場合)は其の前(後)に指定符「ムニ」を附して送信す</p>	<p>(一) 送信艦前の終信後解信符を發することなく艦船(隊)番号順序(艦船隊番号の制なきときは指揮順序)に「ムニ」に續て同一信号文(指定箇所)を繰り返す</p>
<p>(二) 送信艦前同其の照校に誤るきを見て逐次、ヨ</p>	<p>(二) 送信艦前のヨイに對し解信符を發す</p>

イを發す

(三) 照校に誤あるときは其の程度「イ」を發し續て誤れる部分を再送し誤なきに至る迄照校せしむ

(三) ムニに就て誤れる部分を繰返す

二 一部に照校せしむる場合

絶受信艦所中の一部を指定し照校せしむるときは送信艦所は「ムニ」に就て照校艦所名を發したる後送信指定照校艦所は前項に準じ照校を行ふ

三 照校艦所は他艦間校中努めて自艦の誤謬箇所を訂正を行ふものとす

第三十六條 発光信号に於て着信艦所多数なるときは受信艦所又は解信所に代ふるに白灯一個を以てすることを得此の場合天々之を応信灯又は解信灯と稱す其の用法左の如し

送信艦所

受信艦所

一指呼信号に就て白灯一個を矣す

一 応信灯(白灯一個)を矣す

二 同灯を滅して送信を行ひ終信所に就て之を

二 送信艦所の送信を始めたるを見て同灯を滅

し矣し受信艦所の解信灯を見て之を滅す

し解信したるとき之を矣し送信艦所に依り

三 句吳新章の場合句吳新章に就て同灯を矣す

之を滅す

以下二項に準じ交信す

三 解信とは同等を矣し送信艦所に依り之を滅

し以下二項に準じ交信す

第三十七條 信号符号を送信する場合其の確實を保するため要するときは該符号に相当する和音名

稱又は左の数字傍訓括弧を以て包むる其の直後に加ふるものとす此の場合信号符号に加ふべき

の小括弧は省略するを例とす

第八章 手旗信号法

第四十一條 指揮、中継、応信及解信に使用する信号艦の名を手旗形象を以て表示するには海軍通信略語略語形象は省略するものとすに依る

但し

一、固有名称を以て指揮するを便とする場合には之に依る

二、軍隊内において艦船番号に相当する原副を以て其の艦船を表示するものとを得

三、水雷(潜水)艦隊内において旗艦を表はすには①原副を以てし又該旗艦を司令駆逐艦(水雷艦)

(潜水艦)掃海艦を表はすには隊番号に相当する原副を以てするものとを得

第四十二條 交信法

一 起信及応信

起	信	應	信
<p>(イ) 形象を以て指揮する場合</p> <p>送信艦は起信形象を以て受信艦を指揮す</p> <p>但し</p> <p>受信艦の名を表示する必要があるときは起信形象に繼て之を表示す</p> <p>(ロ) 旗旗を以て指揮する場合</p> <p>(一) 第二十條に依り指揮信号を掲ぐ</p> <p>(二) 指揮信号は手旗信号終る迄掲揚し置くものとす但し旗旗信号の懸垂を避くる必要</p>	<p>受信艦は應信形象を表示するか又は和音旗を半揚し之に応ず</p> <p>但し</p> <p>何れの送信艦に對する應信なるかを表示するの必要があるときは左に依る</p> <p>(イ) 送信艦の名に繼て應信形象を表示す</p> <p>(ロ) 和音旗の下に送信艦の名(錯誤の虞なきとき)船名旗、番号旗は之を省略するものとす</p> <p>在程を連續す</p>		

ある場合には送信を開始しはるを降下する
ことを得

送信及解信

送

信

送信艦所に受信艦所の応信を見は左の順序に
送信す

(イ) 発信番号(必要なきときは省略す)

(ロ) 指定符(必要なきときは省略す)

(ハ) 信(信電)令番号(必要なきときは省略す)

(ニ) 本文

(ホ) 発令時刻(必要なきときは省略す)

(ハ) 終信形象

但し海軍無線電報を転送する場合及長文の
信号文を送信する場合に発光信号法に準じ
之を行ふものとす

解

信

受信艦所に送信艦所の終信を見は解信形象を
表示するか又は和音旗を全揚す

但し

(イ) 所字文にありては其の所字を了解したるとき
は勿論を表示し(勿論の表示困難なるか又は
必要なきときは省略することを得)意味を了
解したるとき解信を表示す

(ロ) 何れの送信艦所に對する解信なるかを表示
の必要あるときは送信艦所の名に從て解信形
象を表示するか又は和音旗の下に送信艦所
名(錯誤の虞なきときは船名旗)番号旗の之
を省略することを得を連綴全揚す

(ハ) 一斉回頭信号(一斉回頭之字運動を合点に
しては同一信号を以て解信を表示す

(ニ) 要すれば解信形象の前に発信番号を表示す

消信及再送は発光信号法第三十三條第七号に準じて之を行ふ

第四十三條 中継法

一 手旗形象を以て行ふ場合

発光信号の中継法第三十四條第一号に準ず

二 旗旗を以て行ふ場合

(イ) 中継艦所は第二十三條の中継表示信号を要請し解信したるとき之を全揚了発信艦所は之を見て指呼信号を降下し中継艦所は次位の中継艦所に受継ぎ終らば其の信号を降下し順次通信艦所に及ぼす但し発信艦所送信終了前に指呼信号を降下したる場合は中継艦所は次位中継艦所に送信を開始せば中継表示信号を降下することを得

(ロ) 中継艦所を指定し中継をなさしむる場合には発信艦所は第二十三條第二号の信号を掲ぐるの外前項に準ず

(ハ) 中継艦所若は着信艦所他の中継艦所の中継を待たずして信号を了解したるときは其の中継表示信号に対し直に解信を表示するものとす

例一

陸奥(△)より長門(ナト)への信号を山城(ヤマ)が中継する場合

(イ) 手旗形象を用ふる場合

中継艦山城は「ナト中△」なる形象を表示す

発信艦陸奥は「ナト中△」に繼て所要の信号文を送信す

(ロ) 旗旗を用ふる場合

中継艦山城は「長門初陸奥」なる旗旗信号を半揚す

発信艦陸奥は 前号の信号文を送信す

例二

陸奥にて山城を指定して長門への信号を中継せしめる場合

(イ) 手旗形象を用ふる場合

発信艦陸奥は 「起信形象ヤマ」を表示す

中継艦山城は 「応信形象を表示す」

発信艦陸奥は 「ナト中ムツ」を経て前号の信号文を送信す

(ロ) 旗素を用ふる場合

発信艦陸奥は 「山城和ー長門」を全揚す

中継艦山城は 「長門和陸奥」を半揚す

発信艦陸奥は 前号の信号文を送信す

第四十四條 照 校 法

照校の要あるときは第三十五條発光信号照校法に準ずるものとす

第四十五條 手旗信号にて羅馬字又は信号符字を表はすには羅馬字又は區別符はその和音名称に相当する手旗形象を以てし数字は数字傍訓(第三十七條)に依り之を表はし小括弧形象を其の前後に加ふるものとす

例

信号符字「AB5」を表はすには

「小括弧イハイー小括弧」

二十六條 手旗信号中数字を用ふる場合時に確實を保つるの要あるときは第三十八條の規程に準

じ数字略語を挿入するものとす而して本数字略語を挿入するときには最後の数字形象は之を省略するを例とす

第九章 色灯信号法

四十七條 色灯信号法に關し左の通定を

使用区分	各動信 号 灯	艦 尾 信 号 灯	艦 側 信 号 灯	連 場 信 号 灯
戰隊 <small>（水雷隊、水雷隊、水雷隊、水雷隊、水雷隊）</small> 内 <small>（水雷隊、水雷隊、水雷隊、水雷隊、水雷隊）</small> に用ひ緊急一斉回頭に使用す	驅逐艦、潜水艦、水雷艦、水雷艇、掃海艦、戰隊内に用ひ警戒航行中に使用す	掃海隊、水雷隊、驅逐隊内に用ひ掃海中に使用す	新軍信号書規定の信号に使用す	
起 信 發信艦は着信艦を指呼することなく所要の信号灯を点す	同 上	同 上	同 上	
解 信 着信艦は信号を了解せば發信艦と同一信号灯を点す	着信艦は信号を了解せば發信艦と同一信号灯を点す	着信艦は信号を了解せば發信艦と同一信号灯を点す	着信艦は特に解信を表示せず	
	但し、敵艦は他に航行する場合を除くの外之を点さざるものとす			
發信艦は着信艦の解	發信艦は適當の時機	發信艦は着信艦の解	表示の必要なきに	

終 信	消 信	記 事
<p>信を見は信号灯を消 滅す着信艦亦之に倣 ふ</p>	<p>現に在りある信号を 取消すには其の信号 灯を消滅するものと く信号灯の全部を消 す</p>	<p>一本信号灯は光達距 高を其の時の視界 に於て千米を標準 として調整するも のとす 二信号の呼称は灯色 を以てするを例と す</p>
<p>信を見は信号灯を消滅す着 信艦亦之に倣ふ</p>	<p>同 上</p>	<p>一本信号灯は光達距 高を其の時の視界 に於て軍艦にあり ては千米駆逐艦 潜水艦、水雷艇、及 掃海艇にありては 五百米を標準とし て調整するものと す 二信号の呼称は信号 灯の固有番号を示 す数字に依るを</p>
<p>信を見は適當の時機 に信号灯を消滅す着 信艦亦之に倣ふ</p>	<p>同 上</p>	<p>一本信号灯は光達距 高を其の時の視界 に於て千米を標準 として調整するも のとす 二信号の呼称は關し ては艦尾信号灯に 準ず</p>
<p>蓋らは信号灯を消 滅す</p>	<p>同 上</p>	<p>信号の呼称は灯色 を以てするを例と す</p>

第十章 雜種信号法

第四十八條 艦船に於て緊急召集を行ふ信号法左の如し

空砲二發(間隔十秒)を三回以上(毎間隔二分)放ち(空砲は普通指揮官乗船又は指揮官の艦に於てのみ之を發す) 尚昼間はB旗回答旗夜間はC旗

紅の三灯を連揚し又探照灯を点じて縦横に動かし陸上及空中を照射するものとす

第四十九條 緊急を要する信号の迅速上所在信号艦所の信号を一瞬中止せしむる場合には左の信号

を行ふものとす

一 昼間 U旗一旗を掲ぐ

二 夜間 (イ) 紅白綠灯を上下に連揚す

(ロ) U旗連送

之を解除するには昼間にありてはU旗を降下し夜間にありては該連揚灯を滅し否U旗を連送するものとす

本信号を認めたる艦所はU旗又はU否U旗を以て応信、解信を表示するものとす

第五十條 艦名不明のものを誰何せんとするとき略語ダレ數回に繞て自己名を發し相手は応信

所に繞て其の艦名を發して之に應ずるものとす

但し該隊にありては該隊指揮官の乗艦のみ其の隊名を發して應ずるものとす

例とし

錯誤の虞なき場合に

同灯色を以てす

ることを得

第五十一條 略語信号

略語信号を發付すには左に依る

一 手旗信号

(イ) 海軍通信略語に依る場合

前後に略語形象を加ふ (錯誤の虞なきときは省略することを得)

例

「略語形象トテ略語形象」

「当番船送火」

(ロ) 海軍作戦通信略語に依る場合

前後に作戦略語形象を加ふ (錯誤の虞なきときは省略することを得)

例

(1) 「リサシヨセ句矣シリク?リサ」 「敵主力に接触セシヤ」

(2) 「リサホホホ句矣◎ニ五キ四三リサ」 「敵航空母艦見ゆ方位二十五度距離四十三浬」

二 燈光信号(水中)信号

(イ) 海軍通信略語に依る場合

前後に略語符「リヤ」を加ふ (錯誤の虞なきときは省略することを得)

例

「リヤムリヤ」

「迎への短艇送れ」

(ロ) 海軍作戦通信略語に依る場合

前後に作戦略語符「リサ」を加ふ (錯誤の虞なきときは省略することを得)

例

三、旗旗信号

(イ) 海軍通信略語に依る場合

和音旗の下に略語に相当する和音名称の旗を加ふ
例

「和B方Y」

「ハシケ」(艇)

(ロ) 海軍作戦通信略語に依る場合

區別旗として丁旗を別に掲揚し置くか状況に依り招呼信号の下又は本信号(海軍作戦通信略語)の上に連續し同一場旗線に掲ぐることを得
例

(1) 「丁」旗線「D5」

「敵艇行棧の方向問

(2) 「水」丁「KOPY」

「水雷戦隊砲我配備に就く」

(3) 「丁」旗U短

「敵棧は直上にあり」

第五十二條 旗時旗の使用法に關し左の通定む

一、時刻整合の場合

(イ) 時刻整合を行ふ艦船は凡て時刻整合旗として標時旗を使用す
(ロ) 基準艦は定時(指定時)の

五分前、標時旗半揚、視認困難なるときは白灯を以て之(數回を發す)
十分前、標時旗全揚(視認困難なるときは白灯一圓を發す)

二
三
艦船就泊中軍艦旗掲揚(落下)の場合並に逢拜式廻行の場合

所在首席指揮官兼縱向時刻整合法に準じ標旗旗（要す此の
百灯併用）左使用す

本標明旗は各旗艦
司令駆逐艦 司令潜水艦 司令水雷艦
司令昇降艇等に必要な場合之に準ず
及中継を要する位置にある艦のみ掲揚するものとす

但し軍艦旗掲揚の時刻に時刻整合を行ふときは前号の様時旗を以て本橋時旗に兼用す

三、同時に二艦以上札砲を施行する場合に、前在札砲施行先任艦は時刻整合法に準じ、横隊旗（整列旗）を白灯併用し、

左使用

第五十三條 整備旗(灯)の使用法に關し左の通定む

一、整備と同時に整備旗(灯)を全揚裏して之を報告し指揮官の艦に倣ひ若し其の応答旗を下(解信)し

消滅に依り降下滅す

二、中繼及為下場合

自己整備の際一時本旗(灯)を全揚したる後之を半下し旗幟中継法に準じ逐次全揚するものとす

第五十四條 速力標(灯)を以て行ふ速力信号に關し左の通定を

一、本信弓付出入港、狹水道通過、圓形運動、速力變換、列に出入する艦石るとき及他艦に接近

する場合速度力の現状及変換を他艦に知らしむる必要あるとき之を使用す

二 信号の方法

(イ) 昼間は遠力標夜間は遠力灯を前(後)橋下桁端に掲ぐ

(ロ) 速刀標は機械前進の場合には円台の頂を上にし後進の場合には底を上にして寫揚す

遠方灯は前進には台灯後進には紅灯を用ふ新橋灯は常に台灯と

(ハ) 速力標(灯)の掲揚位置に依る速力表示法左の如し

速力

昼間
前後に示すものを例示す

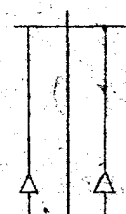
夜

間

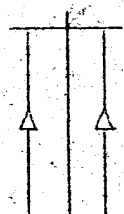
記

事

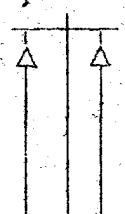
微速力



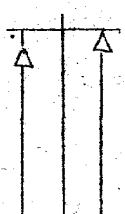
半速力



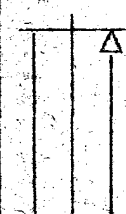
原速力



強速力



第一戦半速力



第二戦半速力



昼間の位置に同じ

軍艦にありては艦橋手摺の上端又は之に準ずる位置とする位置の上約一米、駆逐艦、潜水艦、雷艇及掃海艇等において約二分の一に掲ぐ

桁端と艦橋手摺の上端又は之に準ずる位置との中央に掲ぐ

軍艦にありては桁端の下約一米、駆逐艦、潜水艦、水雷艇及掃海艇等において約三分の一に掲ぐ

右舷の速力標(灯)を桁端一杯に左舷のものを原速力の位置に掲ぐ

右舷の速力標(灯)を桁端一杯に掲げ左舷のものを下(添)す

左舷の速力標(灯)を桁端一杯に掲げ右舷のものを下(添)す

第三戦斗速力	第四戦斗速力	第五戦斗速力	最大戦速 前進一杯	停止
昼間の位置に同じ				
左舷の速力標(灯)を桁端一杯に右舷の速力標の位置に掲ぐ	右舷の速力標(灯)を桁端一杯に左舷の速力標の位置に掲ぐ	両舷一杯に掲ぐ	第五戦斗速力に同じ	速力標(灯)を下(減)す

三 速力標(灯)は編隊航行中に旗艦復列にありては各列先頭艦に倣ひ之を掲揚降下するものとす

四 減軸運転又は散行運転等にて航行中は現に發揮しつつある速力に相当する速力標(灯)を掲揚するものとす

五 出入港等に於て各舷の機軸の使用法異なるるとき原速力以下の速力を標示するに同各舷毎に原速力半速力(微速力)の位置に速力標(灯)を掲揚するを例とす

第五十五條 回転増減信号に關したの通定を

文字標P増加を示し「P」と略稱することを得及R(減少)を示し「R」と略稱することを得を用ひ之を
下桁に掲げ艦橋手摺の上端又は之に準ずる位置よりの高さに依り機械回転数の現狀が指定能力に
對する回転数より幾許を増減しあるやを表示す

一流四分の一場

五回転

一流全場一流四分の一場

二十五回転

一流半場

十回転

一流全場一流半場

三十回転

一流四分の三場

十五回転

一流全場一流四分の三場

三十五回転

一流全場(下桁端一杯)

二十回転

二流全場

四十回転

第五十六條 舵柄信号に關したの通定を

編隊航行中艦艦にありては操舵の現狀を表示するため左に依り舵柄信号を使用す

右舷に青色球形標左舷に赤色四角形標を掲げ面舷標同じ高さに在るときは舵の中央なることを示
し青標の位置低きときは面舷赤標の位置低きときは取舵なるを示す

附 録

海 軍 信 号 誌

一 海軍信号誌は海軍信号を傳達し、着信及中繼別に綴りたるものにして之を左の三種に分

(1) (2) (3)
着 信 誌
中 繼 誌

(特に中繼誌を備ふるの要なきときは中繼信号は之を着信誌中に併記し中繼誌
は之を備へざることを得)

二 海軍信号着信紙の形式左の如し

司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

紙信着發号信軍海

月	日	所在	発令時刻	(第一号用紙)
発信艦所	着信艦所	着信艦所	受報艦所 (受報者)	
発信者	着信者			
夕	指定	緊急至急普通	送受信時刻	信号法
信(信電)令			中継艦所	当番者

海軍信号燈着信秋

[illegible]

(註) 本表は符号略語、信号等の記註用とする。

(第一号用紙)